

令和 7 年度 滑川市総合計画審議会 開催結果（概要）

開催日時 令和 7 年 7 月 10 日（木） 17:00～18:50
 会 場 滑川市役所 東別館 3 階 大会議室
 出席者 委員 16 名
 市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、産業民生部長、
 建設部長、事務局（企画政策課）

	委 員	所 属	備 考
1	廣瀬 淳	滑川商工会議所	代理出席
2	毛利 安利	滑川青年会議所	欠席
3	細田 淳	アルプス農業協同組合	代理出席
4	池田 文也	滑川漁業協同組合	
5	山西 潤一		オンライン出席
6	村中 里美	北陸銀行滑川支店	
7	浦島 成友	連合富山新川地域協議会	欠席
8	釣谷 秀樹	北日本新聞新川支社	
9	松井 正嗣	滑川市自治会連合会	会長
10	車谷 亮	滑川市医師会	欠席
11	西元 正史	滑川市社会福祉協議会	副会長
12	山岸 玲子	滑川市民生委員児童委員協議会	
13	石倉 巧美	富山県私立幼稚園・認定こども園協会	
14	原 洋子	滑川市連合婦人会	
15	八橋 謙二	滑川市スポーツ協会	欠席
16	松倉 康裕	滑川市小・中学校 P T A 連合会	
17	川崎 玲子	滑川市ボランティア連絡協議会	
18	上原 明義		
19	川端 典子		

《 次 第 》

1 開 会

2 委嘱状の交付

3 市長あいさつ

4 会長、副会長の選出

5 諮 問

6 議 事

(1) 後期基本計画案作成までの取組について

① 市民アンケート調査

② 市民・高校生を交えたワークショップ

③ 前期基本計画の進捗状況把握

(2) 第5次滑川市総合計画後期基本計画・第3期総合戦略（案）について

(3) 今後のスケジュールについて

(4) その他

- ・ デジタル田園都市国家構想交付金を活用した事業の進捗状況について

主な発言内容

【事務局】

定刻になったので滑川市総合計画審議会を開会する。

☐ 委嘱状の交付

☐ 市長あいさつ

☐ 会長、副会長の選出

【事務局】

水野市長から第5次滑川市総合計画後期基本計画及び第3期総合戦略の策定について諮問をする。

【市長】

滑川市総合計画後期基本計画及び総合戦略の策定について、滑川市総合計画審議会条例第1条に基づき、市勢の発展と市民生活の向上を期するため、滑川市総合計画後期基本計画及び総合戦略の策定を諮問する。

（市長が会長に諮問書を手渡す。）

【会長】

諮問を受けたので、第5次滑川市総合計画後期基本計画・第3期総合戦略の策定について審議に入る。

議事の（1）後期基本計画案作成までの取組について、（2）第5次滑川市総合計画後期基本計画・第3期総合戦略（案）について一括して、事務局から説明されたい。

☐ 事務局説明（資料1～4-2）

☐ 説明事項の質疑応答

【委員】

市民アンケートの結果において、満足度が低く、重要度が高い項目に対して、これからどういう施策を打つかを考えることも大事だと思うが、その点がわかりにくかった。

デジタル田園都市構想の効果検証の結果について、どんな効果検証ができたのか。

教育において、ものづくりの町の滑川を支える人材づくりという項目があるが、ものづくりとうまく繋がってないと思う。国の政策として、教科横断的な学習、STEAM（スチーム）教育に力を入れていく方向にあるので、その点も踏まえて考えて欲しい。

ICTという言葉が多く出てくるが、現在国の政策としては、デジタル学習環境という言葉を使っている。デジタル学習環境の中にICTやクラウドを使うことが前提となっているため、言葉を変えた方がよい。

生涯学習については、市の生涯学習政策に対する対応が古い形だと感じた。生涯学習の講座数や登録者数をKPIにしているが、これからは、学んだ成果をいかに地域課題解決に役立てるか、行動する人、いわゆる社会実装ができる人を育てていくことが重要である。

【事務局】

1つ目の質問について、既存事業の中でできるものについて担当課とよく相談の上でこの基本計画の案を作成したが、その取組の中で施策の強化を図っていき、KPI内容を達成していきたいと考えている。

既存のもので足したもののそれから政策目標として新たな設定をしたKPI等もあったので、こちらの方を達成できるように努力をしていきたいと考えている。

2つ目の質問について、この中でSDGsの取組があり、地域人口の増加数やほたるいミュージアムの入館者の増加等の指標がある。新しい取組ではあるが、1年目の結果を報告したものである。

3つ目の質問について、教育のところにおいてICTを活用、としたところを、ご指摘の通り、デジタル学習環境と直せるものは直す方向で検討する。

最後に、生涯学習について、地域人材を入れて、様々なものを体験していくことが生涯学習の大切な取組であるため、委員からの意見のような取組を市として取り組んでいきたいと考えている。

【委員】

すべてプラスの目標にして、市役所は大丈夫か。時間外労働が増えて、市役所の働き方改革が全くなされてないという感じがする。

【市長】

プラスの目標ばかりというものの、現状維持で止めているところもある。市の職員には、あまり負担がかからないよう、総合計画の目標に向かって、一致協力しながら進めていきたいと考えている。

【委員】

必ずしも具体的な施策の達成状況が、市民の満足度に繋がっていないと思う。進捗状況がAだとすれば、もう少し具体的な課題について、しっかり見据えて、施策を見直す必要があると思う。それが市民の満足度に繋がっていくと思った。他の政策についても、同じようなところがあるのではないかなと思うので、もう少し具体的に強化していかなければならないと思うので、施策に一つでも二つでも挙げていただければありがたい。

【事務局】

今回アンケートを取ったときに、満足、不満足、どちらでもない、ということで実施したが、どちらでもないという項目を設定したところ、どちらでもないという項目に結構回答されたところがあった。前回のアンケート結果時にどちらでもないという項目はなかったので、今回はあえて設けたところ、満足度としては低く出ている。

市民満足度を設定していた政策の達成目標を見直したのは、満足度では測れないということで、大幅に見直しをしたというのが現状である。

【委員】

外国人対策を入れれば良いと思う。

【事務局】

資料 4-1 の 53 ページ方で、③多文化共生のまちづくりの項目において、自治会町内会や関係機関と連携して安心して生活できる環境づくりに努めます、といった文言を新たに追加している。

また、地域の特性や特有の課題、問題点を洗い出して地域に住む方が積極的に多文化共生を進める体制を構築できるように支援をします、といった文言も、今までなかった、外国の方が多く滑川市に居住されるようになってきている現状において、その対策について新たに盛り込んだものとなっている。

【委員】

アンケート調査結果から、今後も滑川市に住み続けたいと思いますかという項目で、非常に多くの方が住み続けたいという回答をしている状況で、満足度が低い項目もあったが、住み続けたいという人が多い中での回答であることを念頭に置きながら、満足度の結果を見ていた。満足度が低くても、その目標値に対してクリアができていたり、評価が高かったりする点は乖離していてすごく気になったが、どちらでもないという項目があることで、関心がない、そこまで強くなくても、よくわかっていない、というようなところで満足度の低さに繋がっていると思う。広報などで、自分の身近に感じられるような政策にしていけば、指標の満足度も変わってくると思った。

【委員】

アンケートの回答をされた方の分布ですが、どうしても高齢の方の意見が多くなってしまう。ただ、個別の評価は、いわゆるクロス評価で評価していかないと、判断が難しいのではないかと思います。

大概アンケートをとると、どちらかというとも高齢の方の意見が強く反映されて、若い方の意見が出にくいついていうところもありますので、今の政策の中で人口減やこの後どうやって向き合うのか、というところで、若い方が住み続けたい、いいまちだと思ふような政策が非常に重要だと思ふので、若い方の声をより、どうやったら拾えるかということ意識して施策を進めていかれると非常によろしいと思つた。

【委員】

人を雇うということは非常に苦勞されており、製造業は滑川では多いと思ひますが、高校生が地元の滑川市でそのまま勤めてくれないという声を多く聞きます。学習の場では、製造業の良さを伝えているのかもしれませんが、その魅力の理解があれば、そのまま地元で勤めてくれると思ふ。

小学生のお子さんをもつ従業員が、放課後児童クラブに子どもを預けてるのですが、先生の数が今年の春から少なくなったので、自分の子どもが預けられないかもしれないのでやめたい、ということ言われたので、校数が増えることも大事だが、一つのクラブに何人の先生がいるのかと思ひながら、気になっている部分ではある。

【副市長】

まず1点目、子どもたちにとって、滑川市の魅力をいかに感じてもらうことが、大きくなつた時に、滑川のことを思ひながら仕事をしてくれると思つている。2年前から、なめりかわ未来学校という新しい、全国にどこにもない、滑川で行っているオリジナリティの大変高い子どもたちに滑川の魅力を知ってもらう取り組みをしている。ご指摘いただいた点、これが大変大事だと思ひの中でやっていきたいと思つているので、これからはますますそういう取り組みを進めていきたいと思つている。

【教育長】

1点目のものづくりのまちということで、工場見学も滑川にこんなたくさんの工場があるんだなと、もしかしたら自分がここで働く、働けたらいいのにな、ということにも繋がると思つている。また今後も続けていきたいと思つている。

2点目の放課後児童クラブにつきましては、11 クラブがあるからそれでいいのか、というとも、私も中身の問題は大きいと思つている。決してA評価ではないというのとは、私も実感しており、今年度新たに夏休みに、児童館で学童保育を実施する等、様々なことで今後さらに学童保育もパワーアップしていきたいと思つている。

【委員】

最終的には、みんなが満足するという施策は到底ありえないので、どういう感じで満足を分配して、みんなが安心して働いて暮らせる生活環境を作るかということが、一番基本の目標だと思ふ。

少しずつ見直しをして、おかしいなというところを詰めていく。そうしたら、滑川

がもっと住み良くならないか。一番大事なのは、自分のところの家庭の中で何か問題が起こったときに、すぐ市役所へ飛んで行って、市役所の誰かに相談したら、それがクリアになる、ということが、私たち住民の一番の願い。一人ひとりの要望も違うし、人の考え方も満足度もみんな違うので、何か問題が起こったときに、真摯に対応してもらえる、そんな基本計画であって欲しいと思う。

【市長】

今ほど言われた、政策 33、この基本計画後期基本計画を今作っているが、先ほど言われたように、みんながみんな満足するような計画はありえない。その通りだと思う。着地点を見つけるためにも、私は市民との対話、これが重要だと思っていますので、対話を重ねながら、ある程度の着地点を見つけながら、政策をここまで実行できた。それが皆さんに満足してもらえる。そういった政策が一つでも多くなるように、今後も市民との対話を最重要視していきたいと考えている。

あともう 1 点、市役所に相談に来ればクリアになるという話があった。それが一番市民として望むことだという意見もあったので、職員には市民一人ひとりと対話を重視して、市民の思いに届くような形で柔軟な対応をお願いしているところである。そのあたりの満足度も上げていければと考えている。

【委員】

一番下は中学生の子供が、早月中学校に在学しているが、昨年度から、職員の働き方改革が進み、部活動の方の関係もいろいろ進んでおり、地域移行するということで今年度からは、部員数が少ないところは入部をさせないということに移行した。ただ、問題だと思ったのは、したい部活ができない子どもが出てきているのは難しいと思ったので、早月中学校は人数も少なく、その点、部活動に入る、チームを組むことも難しいので、滑川中学校と合同での部活動もあるということになっているが、ある意味地域移行がうまくいってないというのも現実だと思っている。市役所の方もいろいろ手を変えとかあると思いますが、やさしい滑川なので、幼児の子にはすごく充実した手当なり支援なりが行き渡ってきていると思っている。ただ、小学校以降の子どもたちにとっては、どうだろうかと常々思う。特に、小学校までの医療費などは無償化しているが、そういう面ではなく、教育としてスポーツ、生涯スポーツの振興という政策は重要だが、今の小中学校の子たちが気持ちよく、自分がやりたいスポーツをやれることが、後々の生涯スポーツに繋がっていくと思うので、小学生の子どもたちがクラブとしてどこかに所属していることも増えてるとは思いますが、中学校以降ではもっと充実していったら良いと思った。

【教育長】

部活動の地域移行、今は地域展開という言葉になっているが、人口はどうしても減少して生徒数も減少しており、どうしてもできない種目が出てきているのが現状です。ただ、早月中学校の方では、文化部がいろんなことやる、スポーツ部も何かいろんなスポーツに取り組む、体づくりをするなど、それなりに工夫をしているところですが、いただいたご意見を参考に、また今後の地域展開など進めていきたいと考えている。

【会長】

意見がなければ、この方向で策定作業を進める。

委員の意見などを踏まえたものについては、私が確認した後に、会長一任で、後日答申することによろしいか。

(異議なし)

【会長】

それでは議事の(3)今後のスケジュールについて、事務局から説明されたい。

□事務局説明(資料5)

【会長】

今後のスケジュールについて、何かご質問ご意見はあるか。

特にご発言がないようなので、最後に、その他について事務局より説明されたい。

□事務局説明(資料6)

【会長】

ただいまの説明について、何か質問ご意見はあるか。

意見も出尽くしたので、進行を事務局へ返す。

□市長あいさつ

□閉会

(終了 18:50)